

2014年1月9日

無断複製・無断転載を禁止致します。

ビッグデータ関連事業に集中

テクノスJの活躍期待

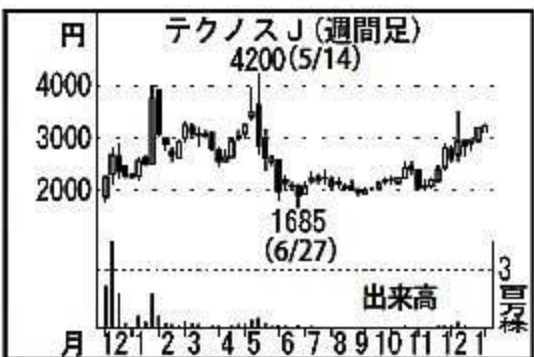
テクノスジャパン（IIテクノスJ、3666・JQ）はERPパッケージを中心とした基幹業務システムの導入支援サービスを手掛ける。次期成長に向け、現在はビッグデータ関連事業に注力中だ。2013年5月には米シリ

コンバレーに、ビッグデータをはじめとする先進的なICT（情報通信技術）動向などのリサーチに特化した子会社 Technos Research of America（TRA）を設立し、9月に営業を開始した。さらに、10

月にはビッグデータ専門子会社としてテクノス・データ・サイエンス・マーケティング（TDSM）を設立している。「例えば、ソーシャルメディア上にある情報は不特定多数の未来への希望、要望などを含み、未来予測データと

して活用できる。これらを基に、消費者の行動分析、モデル構築を行えば、その利用価値は計り知れない」（城谷直彦社長）という。

同社は現在、ビッグデータの活用について、早稲田大学総合研究機構マーケティング・コミュニケーション研究所と産学連携し、共同研究を進めている。今後、早稲田大学との共同研究、TRAの先進的情報、TDSMの技術を生かし、基幹系データと情報系データの統合によるプラットフォームの構築に取り組む。ビッグデータ解析のスペシャリスト育成にも注力し、



同事業は来3月期から本格化する見通しだ。ビッグデータ解析のプラットフォームを製品化して、海外展開する計画もある。将来的には、同事業が主要事業に成長するとともに、現在の主力である基幹業務システムの導入支援とのシナジー（相乗）効果も期待できる。

同社株は1月24日を基準日として1対3株式分割を実施する。直近の株価は上昇後の調整局面にあるが、流動性向上期待から今後は活気づくことが期待されよう。